様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 14 日現在

機関番号：42502
研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2010～2012
課題番号：22330263
研究課題名（和文）小児病棟で働く医師･看護師以外の職種の役割－その実態と教育制度の確立に関する研究
研究課題名（英文）Study on the real condition of non-medical staffs who are working in pediatric ward excluding pediatrician and nurses in Japan-It’s real condition and possible establishment of educational system-.
研究代表者
宮本茂樹（MIYAMOTO SHIGEKI）
聖徳大学短期大学部・保育科・教授
研究者番号：30209944

研究成果の概要（和文）：小児医療で、小児科医・看護師以外の職種の実態を調べた。1 年目は、チャイルドライフ・スペシャリスト（CLS）に関する全国調査、2 年目は、ミルズカレッジを訪問し、CLS の養成、資格認証の実態を調査した。3 年目は、ミルズカレッジから 2 人の先生を招聘し 3 回の講演会を開催した。小児医療責任者は、CLS の意義を理解しているが、我が国に養成機関､認証制度が無いため保険加算が無く､これが障害になっていることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：We studied the real condition of non-medical staffs who are working in pediatric ward in Japan. The first year, we sent questionnaires to the director of hospital about CLS. The second year, we visited Mills collage to see the curriculum of CLS and visited two children’s hospitals and listen from CLS directly. Finally, we visited Child Life Council and met Executive Director of CLC and come to the conclusion that CLS can educate in Japan. The third years, we invited two doctors from Mills Collage and open three lecture meetings. As conclusions, most Japanese pediatrician feels the necessity of CLS, however; we have no education system and CLS is not approved in health insurance system in Japan、this is a most important problem.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	2,700,000	810,000	3,510,000
2011 年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2012 年度	2,400,000	720,000	3,120,000
年度			
年度			
総　計	6,900,000	2,070,000	8,970,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・特別支援教育
キーワード：疾患･病気療養

１．研究開始当初の背景

（１）　我が国の小児医療は多様化、高度化し、小児科医・看護師だけでは小児医療を支えることが出来なくなり、欧米の医療に後れを取っている感が強い。特に、親から切り離された異質の環境の中で、不安や恐怖、痛みなどを伴う小児医療は、子どもの情緒面、成長発達面に影響が残ることが危惧されていた。

（２）　欧米先進国では、小児科医・看護師以外の職種の人が雇用され、プレパレーションなど、不安、苦痛などを軽減させる医療が

進んできていた。

２．研究の目的

このような小児医療に関わる、非医療者の実態を明らかにし、強いてはその養成制度を確立させる可能性を探るために、多職種、すなわち小児科医、看護師、保育学・教育学者、CLS、医療保育専門士からなる研究を立ち上げた。

３．研究の方法

（１）　研究期間の３年間を以下のような計画を立てて実行した。初年度は、全国日本小児科学会研修専門施設（468 病院）の病院長、小児科部長、小児病棟看護師長およびそれ以外の職種を対象にアンケート調査用紙を送り、非医療者の実態（数、雇用条件、仕事の内容、有用性など）を調査し、併せてその雇用の要望、問題点を聞いた。

（２）　２年目は、CLS の実態を明らかにするため、我が国の CLS が最も多く教育を受けたカリフォルニア州オークランド市のミルズカレッジを訪問した。教育カリキュラム、授業・実習の実際を見聞し、併せてオークランド小児病院、サンフランシスコ小児病院を見学し、実際に働いている CLS の勤務内容を見聞した。最後に、ミルズカレッジからメリーランド州に移動し CLS 協会本部（CLC）を訪問し、研修制度、カリキュラムおよび認証制度について討論し、我が国でも養成可能か話し合った。

（３）　最終年度は、ミルズカレッジから、Linda Perez 先生、Susan Marchant 先生、を招聘し、3 回の講演を行い、CLS の普及に努めた。

４．研究成果

（１）　全国研修病院の調査

全国 468 施設の内、160 病院から回答が得られた。病院長、小児科部長共に、CLS を含めた、非医療者の有用性を認めていたが、保険診療に加算が付かないため、雇用費用はすべて病院持ち出しになってしまう。CLS を雇用している施設では、その費用以上の有用性があるが、規模の小さい施設では不可能である。

看護部長、非医療者に対する質問では、回答に一部お互いに乖離している部分も診られた。看護師、医療者から見た医療保育専門士の医療知識に問題があると指摘がされた。子どもへの医療に対するケアーの考え方は、看護師・保育士の間で、実施している内容で考えが異なっていることも見られた。

（２）　アメリカ研修施設、小児病院視察

２年目に、CLS の実態を明らかにするため、我が国の CLS が最も多く教育を受けたミルズカレッジを訪問し、Linda Perez 先生、Susan Marchant 先生に研修カリキュラム、授業・実習の実際を見聞した。ついで、オークランド小児病院、サンフランシスコ小児病院を見学し、実際に働いている CLS 部門長に話を聞いた。医師、看護師と仕事の内容を共有し、サンフランシスコ小児病院の CLS は、3 交代制で勤務していた。骨髄移植の無菌室、救命救急室などでも勤務している実態を知ることが出来た。ただ、看護師のように病院から全額給与が支払われているのではなく、病院雇用ではあるが、半分は病院から、半分は小児病院への寄付によって賄われていることであった。その背景は、看護師のように保健医療の面でまだ十分に認めていないためと話していた。

ミルズカレッジからメリーランド州に移動し、CLC を訪問した。事務局長の Mr. Dennis Reynolds および次期 CLS 会長 TF Millar が対応してくれた。特に確認したかったのは、日本で CLS を養成できるか、その際アメリカの CLS 受験が可能か、合格したときに認定証の交付が可能なのか、その時に協会へ一定のお金を支払う必要があるか、などであった。CLS の養成はアメリカとカナダの大学で行われており、CLC が資格試験を行い認証している。カリキュラムが CLC の提示する水準を満たしていれば、独自の認証制度は行っても良く、CLC に金銭の支払いは必要は無い。CLC が行う試験は、インターネットで世界中から受験できるようになる。これに合格し、一定の手続きをすれば、北米の CLS の資格取得も可能である。

（３）Linda Perez 先生、Susan Marchant 先生の招聘

最終年度は、ミルズカレッジから２人の先生を招聘し、CLS の普及を行った。第１日目は、私学会館で一般向け講演会を実施した。講演の題名は「CLS の歴史と教育」（Perez 先生）、「アメリカにおける CLS の専門職」（Marchant 先生）で、若い学生、子どもが CLS にお世話になった保護者、教育関係者なども来聴し、会場いっぱいの参加者があった。その後、２人を囲んで意見交換会を行った。2 日目は、独立行政法人国立成育医療研究センターを会場に、我が国の CLS が集まり、講演会を実施し、あわせて意見交換、施設見学を行った。最終日は、聖徳大学において、医療保育士専攻の学生を中心に講演会を実施した。多くの学生が集まり、医療保育士を含めて、CLS に興味を持つ学生が多いことを知ることが出来た。

（４）考察と結論

今回の研究で、小児医療機関の関係者が、小児科医・看護師以外の職種が必要であることを知ることが出来た。現在、保険診療で認められているのは、病棟保育士だけであり、それにもプレイルームの面積など厳しい規

制がかけられている。また、病棟保育士は、医療行為は一切行わないことになっている。この職種も、子どもの生活面の支援に欠かすことが出来ないものである。

一方、医療の高度化に伴い、長期間に亘り保護者から隔離され、疼痛を伴う医療処置、検査を受ける子どもが多くなってきた。子どもの精神的な面、成長発達を考えるとき、医療以外の精神面、肉体面での支援が必要であると考えられてきている。欧米では、CLS, HPS 等の新しい職種が出現し、現実に小児病棟に配置されてきている。我々はその可能性を探るべく、今回の研究を立ち上げた。

今回明らかにすることが出来たのは、我が国小児医療の現場でも、その需要が多いことであった。ただ、その代表的職種である CLS の資格は認証されておらず、当然医療保険制度上での加算は認められていない。CLC 本部を訪問し、その研修カリキュラム、認証制度について話を聞いたところ、非常に柔軟な考え方を持ち、お互いに連携を密にして、CLS のレベルを維持すると、アメリカ以外の国においても、研修、認証制度が可能であることが明らかになった。

以上のことを踏まえ、我が国においても、同じような職種の教育、研修、認証制度を早急に立ち上げる必要性があると考えられる。アメリカと同じレベルを維持するためには、単なる短期間の研修ではなく、一定期間、すなわちアメリカと同じ２年間の大学院修士課程の研修が最低限必要と考える。看護師、保育士・幼稚園教諭、臨床心理士、社会福祉士など、この職種を希望する学生は多い。その希望者を柔軟に受け入れ、学部での専攻に応じたカリキュラムの選択が可能な教育課程/大学院を構築する必要があると考えている。アメリカで行ったように、日本小児科学会が全面的にバックアップして、その研修、教育、実習、試験の質を担保し、我が国の小児医療の新しい職種として、育て上げるべきだと考えられる。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計 11 件）

① 松浦信夫、宮本茂樹：我が国の小児医療における,医師･看護師以外の職種の必要性-その養成教育のあり方と役割-。日本小児科学会雑誌総説。投稿中
② 中村伸枝、宮本茂樹、松浦信夫、椨瑞希子、高橋みゆき、相吉 恵：小児病棟で働く保育士の活動実態と病棟保育で役立っている保育士としての教育や経験。日本小児保健研究、投稿中。
③ 宮本茂樹、松浦信夫、椨瑞希子、高橋みゆき、中村伸枝、相吉 恵、Linda Perez, Susan Marchant:アメリカのチャイルド･ライフ。スペシャリスト養成-ミルズ･カレッジ教員による講演会の記録-。児童学研究 15:85-92, 2013
④ 相吉 恵、余谷暢之: プリパレーション（心理的準備）. 小児内科、45:609-612、2013.
⑤ 高橋みゆき：病棟保育士の教育と仕事。チャイルド・ヘルス、15:21-24、2012.
⑥ 相吉 恵：チャイルド・ライフ・スペシャリストの教育と仕事。チャイルド・ヘルス、15:16-20、2012.
⑦ 中村伸枝:アンケート調査にみられる,看護師, 病棟保育士の実態と問題点. チャイルドヘルス 15: 13－15, 2012.
⑧ 宮本茂樹：アンケート調査にみられる, 病院長・小児科医長（部長）の声。チャイルド・ヘルス 15: 10-12、2012.
⑨ 松浦信夫::特集「小児医療の現場で働く、医師/看護師以外の多職種の実態-仕事の内容とその教育制度-」。チャイルドヘルス 15: 2012(企画とびらの言葉)
⑩ 相吉 恵: チャイルド・ライフ・スペシャリストの疼痛緩和支援、特集◎子どもの痛みの看護ケアー疼痛緩和に向けての心と身体へのアプローチー、小児看護、夏号、34:1128-1135、2011.
⑪ 相吉 恵：小児のための感染管理、第５章他職種との連携とＩＣＴ活動　6.チャイルド・ライフ・スペシャリストと看護師との連携. 小児看護 33（臨時増刊号）: 1160-1168, 2010.

［学会発表］（計９件）

① 相吉 恵、都筑美緒、天正幸、宇田川恵里子、杉林里佳、小泉智恵. 胎児死亡・早期新生児死亡を体験する妊婦への多職種支援～同胞へ説明することが妊婦の心理面に与える影響～. 第９回日本周産期メンタルヘルス研究会。2012 年 11 月 10 日.（口演）
② 中村伸枝、宮本茂樹、松浦信夫、相吉 恵、椨瑞希子、高橋みゆき：医療者と小児病棟で働く非医療職との協働についての調査－小児科部長（医長）の非医療職者雇用に対する認識－. 第 59 回日本小児保健協会学術集会, 132, 2012,9/27-9/29, 岡山コンベンションセンター
③ 相吉 恵、井上絵美: Child Life Specialist in Japan. Child Life Council 30th Annual Conference、International Attendee Program.Washington DC, 2012 年 5 月 23 日（口演）
④ 宮本茂樹、松浦信夫：小児病棟で働く非

医療者の現状とあるべき姿-病院管理者のとらえた必要性と問題点。第 115 回日本小児科学会学術集会。2012 年 4 月 20 日～22 日。福岡市（日児誌 116(2)：213、2012 口演）

⑤ 中村伸枝、宮本茂樹、松浦信夫、相吉 恵、椨瑞希子、高橋みゆき：医療者と小児病棟で働く非医療者との協働についての調査-看護士と保育士のとらえた保育士の必要性と協働の問題点-。第 58 回日本小児保健協会学術集会、2011 年 9 月 1 日(木)-3 日(土)、名古屋市。(日本小児保健研究 70(4):64,2011)。

⑥ 相吉 恵、庄司順一、有村大士、大原天青：チャイルド・ライフ・スペシャリストに期待されていること、第 7 回日本子ども学会、埼玉県、2010 年 10 月 5 日（ポスター）

⑦ 齋藤真麻、相吉 恵：持続薬剤投与を必要とする肺高血圧症児へのチームサポート－病棟、医療連携室、地域との連携、第 4 回小児トータルケア研究会、東京、2010 年 9 月 11 日（口演）

⑧ 丸本幸枝、中里弥生、相吉 恵、村松 恵、安藤和秀、西海真理、宮澤佳子：子どもの生体肝移植における病棟看護師の役割、第 20 回日本小児看護学術集会―患者および家族中心医療の理念実現を目指してチームで関わった事例―、神戸、2010 年 6 月 27 日（口演）

⑨ 相吉 恵：The Report of Child Life Specialists in Japan,28th Annual Conference on Professional Issues, global networking. Arizona, 2010 年 6 月（口演）

［図書］（計 2 件）

① 原田香奈、相吉 恵、祖父江由紀子(編集)、「医療を受ける子どもへの上手なかかわり方～チャイルド・ライフ・スペシャリストが伝える子ども・家族中心医療のコツ～」.日本看護協会出版会、2013 年 4 月出版

② 相吉 恵、丸本幸枝、中里弥生：生体間肝移植. 及川郁子（監修）、 古橋知子、平田美佳（編集）、「チームで支える!子どものプリパレーション」.中山書店、233-241、2012 年 6 月出版

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

宮本 茂樹（MIYAMOTO SHIGEKI）
聖徳大学短期大学部・保育科・教授
研究者番号：30209944

(2)研究分担者

松浦 信夫（MATSUURA NOBUO）
聖徳大学･児童学部・教授
研究者番号：50002332

中村 伸枝(NAKAMURA NOBUE)
千葉大学・看護学研究科・教授
研究者番号：20282460

椨　瑞希子(TABU MIKIKO)
聖徳大学・教職研究科・教授
研究者番号：30269360

高橋　みゆき(TAKAHASHI MIYUKI)
聖徳大学短期大学部・保育科・講師
研究者番号：90528291

相吉 恵(AIYOSHI MEGUMI)
独立行政法人国立成育医療研究センター
研究者番号：90470004

(3)連携研究者

なし